

養秀同窓会会報

第6号 平成16年3月1日発行



第2回「養秀祭」母校で開催！！

昨年から開催され、好評を博した養秀祭が、一中・首里高校の創立記念日にあたる 12月9日（月）午後6時から、首里高校体育館で催されました。この行事は、母校の創立記念日を祝い、併せて学校とPTA及び養秀同窓会の交流を深めることを目的として開催されるもので今回で2回目。

平日の6時という早い時間にも拘わらず、260名余の会員、首里高校教職員・PTA会員が参加し、舞台上で演じられる余興を楽しみながら、同期生や先輩・後輩らとの話が弾み、予定の2時間を越える盛況ぶりでした。

主催者として挨拶に立った田端國男会長は、特に今回学校からの勧めで母校の体育館で開催できたことの意義を強調され、母校への支援や同窓会員の団結を呼びかけられました。

神谷嘉善校長（17期生）は、校舎と運動場の位置がまるっきり入れ替わったが、正門のガジュマルがずっと元の位置で、皆様を待っていた、と歓迎の言葉を述べられました。そして、進学・就職の内定状況 空手部女子・弓道部女子の優勝などの例を挙げながら、一中・首里高校の伝統である「文武両道」をしっかりと受け継いで、すばらしい成績を挙げている事を報告、同窓会の物心両面の援助に応えるべく、職員・生徒共に尚一層頑張ると決意を表明しておられました。

また、新崎彰PTA会長は、学校・同窓会と共にお祝いできること、子供達が伝統あ

る学校でのびのびと学業や部活に専念していることが嬉しい、と喜びを語った上で、社会環境が変わっていく中で、親ももっとしっかりして、情報交換しながら、子供と共に学べる P T A 活動を目指したいと意欲を見せておりました。

ステージでは、首里高校生徒による合唱、山之口獲さんの詩の朗読、空手・古武道の演武が先に行われ、前森正一顧問（一中 45 期）の音頭による乾杯、の後は、同窓会員、学校・P T A 役員などによる余興で盛り上がりました。

田場稔前校長（16 期生）も尺八を携えてステージに登場、同期の方と「六段の調べ」を披露、また 36 期生のソプラノ歌手宮良多鶴子さんも「えんどうの花」や「だんじゆかりゆし」など宮良長包メロディーで満場の拍手を浴びていました。

平成15年度 総会・交流会

平成 15 年度の総会は、7 月 25 日（金）午後 6 時から「ホテル日航那覇グランドキャッスル」で開催されました。総会は、校歌斉唱、物故会員追悼（黙禱）と続き、田端会長の挨拶の後審議に入りました。

提案された次の 3 議案

1. 平成 14 年度会務報告及び会計報告
2. 平成 15 年度会務計画案及び予算案
3. 定款の一部改正

は質疑応答の後いずれも原案通り承認されました。今総会・交流会にも大田昌知（一中 44 期）、前森正一（一中 45 期）、石川逢元（一中 49 期）氏ら大先輩が元氣な姿を見せておられましたが、ここ 2~3 年、若い世代や女性会員の出席が目立つようになりました。

総会終了後催された交流会には 260 余名が参加、舞台上で演じられる余興に拍手を送りながら、楽しそうに語り合っていました。

会活動の裏付けである平成 15 年度予算についてお知りになりたい方は、養秀同窓会事務局へお問い合わせ下さい。

遺品・資料等調査委員会発足

先の大戦で亡くなられた学徒及び職員の遺品・資料等を収集、調査して資料館（室）を設立しようと、遺品・資料等調査委員会の設置が 2 月 25 日の理事会で承認され、3 月 22 日には、県平和祈念 資料館やひめゆり平和祈念資料館を視察するなど、活動をスタートさせました。

目的

1. 戦没者個々の足跡を後世に残す。
2. 200 余年の歴史の中に於ける、戦争の 1 ページを明確にする。
3. 首里高校の平和学習に貢献する。
4. 同窓会として平和を希求する証とする。

役員(三役)

委員長	上原 亀一郎	(一中56期系満支部)
副委員長	外間 宏	(一中57期 評議員)
	岸本 政一	(一中17入)
	神山 光祐	(首定10期 副会長)
調査部	部長 宮城 政三郎	(一中58期 理事)
	副部長 安仁屋 実	(一条会 理事)
	幹事 幸地 輝和	(首高10期 副会長)
渉外部	部長	
	副部長 高良 正次	(首高5期 さくら会)
	幹事 新垣 淑輝	(首高4期 副会長)
管理部	部長 神里 常雄	(一中17入 監事)
	副部長 大村 重信	(一中17入 理事)
	幹事 堀川 恭宏	(首高8期 部長)
庶務部	部長 国吉 昇	(一中58期 理事)
	副部長 宮平 盛彦	(一中18入 一条会)
	幹事 中今 純	(首里高22期 副会長)

「在天の霊よ安らかに」一中健児之塔慰霊祭

平成 15 年度一中 { 建児之塔慰霊祭は、梅雨明けの6月23日(月)慰霊塔前広場に於いて、ご遺族、同窓生、首里高校職員・生徒・教育実習生等一千名余の参列の下、厳かに営まれました。

正午の時報に合わせて一分間の黙祷の後、“よどみなく 奮いはげみし 健児らの若き血潮ぞ 空を染めける”という一中健児之塔の歌(作詩仲宗根政善、作曲仲本朝教)を斉唱して式は始まりました。

主催者の田端國男同窓会長の式辞に次いで、首里高校吹奏楽部と合唱部による鎮魂の曲が流れる中、田端会長、神谷校長、新垣遺族会長……と参列者の焼香が続きました。

また、首里高校生徒会代表の真喜志祐介君の平和を希求する力強い「誓いの言葉」と各学級代表による献花、空手部及びなぎなた部による演武奉納があり、最後に校歌を斉唱して、一時間にわたる慰霊祭は幕を閉じました。

戦後半世紀も経て、遺族席にはご高齢の方々にまじって若い方の姿も自につくようになりました。

慰霊祭終了後は、ご遺族の皆様と同窓会員との懇親会が養秀会館二階ホールで催され、学友の消息を尋ねたり、戦時中の苦労話を語り合うなど旧交を温めておられました。

誓いの言葉

首里高校 生徒会長 真喜志 祐介

五十八年前、この地で起こった事を僕達は決して忘れてはいけません。それは沖縄戦当初のことです。今、僕達がいるこの場所に爆弾が投下され、その時この場にいた一中の生徒が犠牲になりました。その後一中の生徒も鉄血勤皇隊として戦場に赴き、そこで

も多くの命が失われました。

先日、僕は平和学習で玉城村にあるアブチラガマに行きました。そこは元軍の病院で、おびただしい病人・けが人でひしめきあっていたそうです。壕の中はひんやりとしていて、懐中電灯の明かりを頼りにしても歩くのがままならない程の暗さでした。壕の奥で当時の暗さを再現するために、すべての明かりを消してみました。そこにはこれまで体験したことのない暗さがありました。

まず急に視界を奪われたことで、身動き一つとれないほどの恐怖を感じました。次に周意がまったく把握できない状況に不安を感じました。そして、さっきまで見えていた友達の顔も見えなくなり、まるで世界に自分一人しかいないような孤独を感じました。戦時中、おびただしい人達がこのような状況の下で、僕が感じたまうな恐怖と不安と孤独に耐えながら隠れていたかと思うと、胸がしめつけられるようです。沖縄戦で亡くなった人はたくさんいます。それと同じくらいたくさんの方が戦争で身も凍るような体験をしたことでしょう。

今、この健児之塔を目の当たりにして、この場は、非常に悲しむべきことだと思います。あの戦争では、僕達と同年代もしくはもっと幼い子供達も親とも離され、戦争という地獄のような場所に送り出されました。

今日、慰霊祭を迎えるにあたって、沖縄戦のことを多くの人から聞き、本で挙び、肌で感じることができました。残された遺族の方々の悲しみは僕達には想像することもできません。親、子供、兄弟、友達を失った悲しみは今でも消えることはないと思います。戦争で得るものは何もありません。しかし、失うものは数限りありません。数えきれないほどの人達が命を落とし、傷つきました。

五十八年前、牛島司令官が白決したあの日も、今日と同じように、蝉の鳴き声はけたたましく響き、身を焦がすような太陽の光が降り注ぎ、空の青さも吸い込まれそうなくらいに広がっていたのでしょう。しかし、人々の表情は今と違って絶望と悲しみでいっぱいだったと思います。

沖縄が受けた傷はまだ癒えていません。僕達はこの戦争の悲惨さ、無意味さを忘れてはいけません。

健児之塔に祀られる一中の生徒・職員そして、沖縄戦でなくなられたすべての人々に深く哀悼の意を表し、誓いの言葉と致します。

情報広場

同期の仲間や先輩・後輩との交流を深めようと、同期会や体育系の OB 会等が盛んに聞かれているようです。最近の情報からそのいくつかをご紹介します。

テニス部 OB 先輩ようこそ！

昨年 10 月、テニス部の先輩で“四年連続四冠”と大活躍中のプロボラー時本美津子さん（トッ キン先輩）の帰省に合わせて、激励会の名の下にテニス部の同窓会があり、急な連絡にも拘わらず、15～28 期の 40 名が出席。白球を追って、共に汗を流した面々は直ぐにタイムスリップ。懐しい一刻を過ごしました。

比嘉律子（旧姓赤嶺 26 期）

野球部 OB 「甲子園の夢をもう一度」

昨年 12 月、首里高校野球部の甲子園出場経験者 OB が、「甲子園の夢をもう一度」の思いで初めての会合を持った。

1958 年夏の大会で県勢として初めて甲子園の土を踏んだ福原朝悦元監督と、63 年夏に県勢初の甲子園勝利を挙げた徳田安太郎元監督を囲んで、このところ甲子園から遠ざかっている母校の後輩達にエールを送った。

集まった“元球児達”からは、「もう 30 年以上も甲子園出場がなく、寂しい」「名門首里高校の出場なくして、沖縄高校野球界の真の発展はない」「沖縄は元より、本土の方でも多くの首里高校ファンが待ち望んでいる」の出場待望論から、「今の練習には厳しさが無い」「ノックをもっとやらなければならない」「核となるエースを育て、守り主体の野球で行くべきだ」等々、指導方法、技術論に至るまで、口角泡を飛ばす熱い野球談義が交わされた。

その思いは初回出場時の主将・仲宗根弘氏によって集約され、「後輩の皆さん！徳田さん、福原さんがお元気な内に今一度甲子園出場を果たされ、共に一緒になって“上げば高し...”を唱わせて下さい。OB も精一杯応援していきます」と力強いエールを送った。

今後、“甲子園に出場したメンバー達”は野球部 OB 会の中核として活動し、学校側や養秀同窓会とも連携を深めながら、具体的な形で現役を支援していこうと誓い合った。

謝敷宗光（首里高 25 期、1969 年選抜大会出場）

同期会	日時	場所	参加者	その他
首高5期	平成15年11月15日(土) ロワジールホテル 68名 毎年開催、会報発行、隔年旅行	首高15期	平成15年11月15日(土) ホテル西武オリオン 180名 3年に1回 次回は平成18年	
首高6期	平成15年11月28日(金) パシフィックホテル 54名「卒後52年に集う夕べ」 隔年開催	首高19期	平成15年11月21日(金) ホテル日航那覇グランドキャッスル 118名(恩師7名含む) 次回は平成17年(還暦祝い)	
首高11期	平成15年11月11日(火) メルバル 86名 隔年開催 次回は平成17年	首高22期	平成15年12月20日(土) メルバル 40余名(模合4グループ合同忘年会)	

平成15年度 支部総会報告

東京支部

10月19日(日)、お茶の水の「じゅらく」で会員35名が出席して行われました。平成14年度の会務・会計報告と15年度の活動方針を承認して議事終了。第一部は元NHK沖縄放送局長座間味朝雄氏が「本土から見た沖縄」と題してご講演、第二部の懇親会では宮良多津子さん(ソプラノ歌手、首里高36期)が沖縄のわらべ歌を唱い、大きな拍手を浴びていました。

関西支部

10月18日(土)「大阪弥生会館」で50余名が出席して行われましたが、半分は学生で、会場は若さでムンムン。平成14年度の会務・会計報告を承認して懇親会へ移りました。

懇親会は若手会員の参加で賑わいましたが、当地で琉球民謡研究所を開いている伊礼正哲氏(首里高28期)の三味線で一層盛り上がりました。

福岡支部

10月12日(日)正午から会員12名が出席して「ホテルステーションプラザ」で開催されました。

総会は14年度の会務・会計報告を承認して終了、夕方7時から支部との交流を兼ねて来県された同窓会本部の田端会長他役員の皆様と懇談、交流を深めました。在校時の思い出や同期生の消息を確かめ合ったりと話題は尽きませんでした。全員で校歌や応

援歌を声高らかに唱って散会しました。

熊本支部

10月11日(土)午後6時から「アークホテル熊本」で会員7名が出席して行われました。

当地の大学に在学中の宮里良徳君(首里高55期)も兄の徳和君(首里高52期)と一緒に参加、先輩方から激励を受けておりました。

総会は14年度の会務・会計報告を承認して終了、同ホテルで「養秀の翼」で来県された同窓会本部の田端会長他役員と交流懇談会を持ちました。

鹿児島支部

10月18日(土)市内の「鹿児島東急イン」で開催、14年度の会務・決算報告を承認し、引続き懇親会に移りました。今総会には金城吉博(首里高18期)、前里光作(同42期)の両氏が新会員として参加、また、夫婦同伴もあって参加者が昨年に比べて倍増し、和やかな会合になりました。懇親会では前支部長の大城宗純さん(一中昭15年卒)が「鹿児島支部のあゆみ」を話されました。

第1回 養秀親睦ゴルフコンペ

絶好のゴルフ日和りとなった10月3日、西原町の沖縄カントリーに44名の養秀同窓生が集い、第1回の親睦ゴルフコンペが開催されました。

幸地副会長と広報部の日渡幹事が受付、写真班としてバッグも持たずに参加、お蔭でスムーズなコンペ運営ができました。

とある先輩は、「申込みはしてないが、欠員があれば参加したい」と駆けつけてくれたのですが、申込者全員が集合時間前に揃った(奇跡のような話)ので、他の組に回してもらいました。

成績は後で述べますが、バーディラッシュで、その筆頭が3個の真条城さん、2個が浦崎、徳村さん、他に10名が1個ずつ取りました。

スタート前のレストランは同窓会さながらの食会場となり、ラウンド後の風呂場でも賑やかなプレー談義が水の音と共鳴していました。

表彰式と懇親会—養秀会館—

会場のオードブルと寿司の匂いが空きっ腹に突き刺さるのを我慢しながらの開会です。

開会の挨拶で幸地副会長は、「ゴルフよりも、この会館で同窓生と祝杯、を上げる喜びは何ともえない」と歓迎していました。

続いて、田端会長が苦労話を交えながら楽しい挨拶をされ、ご自分ではまだ若い(?)と思っていた大村長老が、突然の指名にも拘わらず喜んで乾盃の音頭を取っていただき、会は最高潮に達しました。参加者が20名とコンペの半分だったので全員にマイクを回し、自己紹介とコメントをお願いしたところ、養秀劇団を結成したくなるような挨拶が続き、爆笑が絶えません。

いよいよ表彰式となり、成績表が張り出されると、奇声やガッツポーズで会場はドッ

と沸き、賞昼品授与で名前を呼ばれる度に一段と大きな拍手と歓声が起こり、健闘を讃え合っていました。

上位入賞者の成績（Wペリア）は次の通りです。

順位	氏名	卒業期	ネット
優	桃原 仁一	(首高 11 期)	65
準 優 勝	徳村 政春	(" 13 期)	66
第 3 位	平安 恒政	(" 11 期)	67
第 5 位	屋富祖 昭	(" 13 期)	68
ラッキー 7	澤岨 勝雄	(" 13 期)	70
ベストグロス ブービー	真柴城守清 山田 芳男	(" 16 期) (一中 19 入)	(グロス)75

「養秀の翼」九州ツアー

熊本・福岡支部との交流を目的とした「養秀の翼」が10月11日、2泊3日の初フライト。募集期間が短かく9名の参加になりましたが、最初の一步の意義は大きく、武者震いの団員一行でした。

熊本空港に降り立ち、熊本城などを観光した後、支部総会と交流会に参加しました。

与座支部長を始めとする一中世代と神本、板井副支部長ら首里高世代に迎えられて会場入り、懇談と会食で交流を深めました。二次会は、名物の馬刺しと球磨焼酎で大ブレイクしました。

翌日は二日酔いもなく、阿蘇・九重の山々を眺めながら湯布院を経て福岡へ向かいました。

夕刻7時から博多駅前のホテルで福岡支部との交流会。安室副支部長夫人と前日の交流会に参加出来なかった熊本支部事務局長の儀間敏彦氏（首里高35期）も加わり、盛り上がりました。

田端会長から真栄城支部長に支部助成金と一中応援団旗が贈られた後懇談に移りましたが、話が弾んで予定の時間もアツという間に過ぎ、最後に校歌を唱ってお開きとなりました。

無事役目を果たした一行は、柳川の川下りを楽しみ、北原白秋の短歌路を辿り、名物のうなぎに舌鼓を打ちました。そして、太宰府天満宮にお参りをして、福岡から帰路に着きました。

熊本・福岡支部の皆さんの『熱烈歓迎』に感謝して、第二弾の「養秀の翼」にはもっと多くの方が積極的に参加されるよう期待したいものです。

一中・首里高校創立記念講演会

平成 15 年 12 月 9 日 (月)、首里高校では、学校にゆかりの深い方を招き、学校の歴史を顧みる機会とすることを目的に、講演会を開催しました。

今年は、県立一中出身の詩人・山之口 獏さんの生誕百年に当たることから、一人娘の山口 泉さんに、生涯を詩作に捧げた父・獏さんの生活や 信条について講演していただきました。

講演に先立って、生徒たちによる獏さんの詩の朗読とその生涯を描いた寸劇があり、偉大な先輩 について学ぶよい機会となりました。

「父 山之口 獏の思い出」 (要旨)

私から見た父は、ちょっとひょうきんで、ひょこひょこしていて、面白い人でした。

普段の父はおかしな人なのに、仕事している時は、変身して、とても怖い人という空気が体からピリピリ伝わってくるんです。

ちょっと大きくなってから父の詩を読んだら、何だかがっかりなんですよ。そんなに怖い顔をして書くような詩かな？と。だから、うちの父親は変な人だな、といつも思っていました。

終戦後、疎開先から帰ってきて、父は詩一本で食べていこうと決心しました。相当な覚悟だったと思います。ですから、うちにはお金というのはほんとうに入ってきませんでした。

間借り先のお家のおばあちゃんが女子大の先生で、その勤めで、私は附属小学校に入ったんですが、私立の名門校ですからお金がかかるんです。

しかし、父には金が無い。だんだん生活が逼迫していくんです。そんな訳で、私は小学校入学の時に履いた靴を6年間も履くことになったんです。勿論、父も母も新しい靴を買って上げたいとは思っていたよう ですが、「この次、原稿料が入ったらね」で6年間待ち続けました。

借金ばかりしていた父ですが、「自分は乞食ではない」という確たる信念を持っていました。お金は借りるけれども必ず返す。決して賤しくなどない。自分が持っている時はケチをしない。

それで、今思い出したんですけれども、父が今から45年前ですか、お友達のご尽力で34年ぶりに古郷の土を踏んだそうです。そして、ここ首里高校で講演したそうです。その時に父は、「ケチをするな！ケチな人にならないために、皆さんは詩の精神を養って下さい！」と言ったそうです。やっぱり父だなと思います。皆さんは、心の豊かな人になってほしい。心の豊かな人がこの世に増えれば、もっと良くなるでしょう。努力して自分を高めようとするのはとても良いことだけでも、自分だけ良い思いをしようということが、この世を悪くしていると私は思っています。

父はいつも原稿用紙とペンを持っていました。いつも、「頭の中に詩は一杯入っている。それを書くのが大変なんだ」と言っていました。そして、一旦書き出したら原稿用紙を何枚も何枚も使うんです。とにかく、「推敲の鬼」というあだ名がついていた位ですから……。

父の口癖は、「真直ぐであれ！信念を持て！」でした。「信念を持ったら貫き通せ！貫き通せないものは信念ではない！」とっていました。父は詩人になろうと思い、まさに信念を貫き通したと言えると思います。

“自分のやりたいことを！” 首里高校「社会人講話」

首里高校では、生徒達に将来の進路、職業選択について考える際の参考にして貰おうと、「総合的な学習」の時間（養秀タイム）を利用して、15年度も10月10日（金）の5・6校時に2年生480名を対象に、3回目の「社会人講話」を催しました。

講師は、前年同様、各分野で活躍している首里高OBにお願いしたいとの学校からの依頼により、今年度は、23期生を中心にパリパリの現役13名を同窓会で推薦しました。

講師に対する生徒達の反応は良好で、学校では、今後もOBを中心に多彩な人材を活用して継続したい意向のようです。

母 校 近 況

教頭 兼島 信雄

普通棟クーラーの全面設置完了

待望の普通棟へのクーラー設置が現実のものとなり、夏休み明けから普通棟全教室でクーラーが稼動しました。快適な学習環境のおかげで、学校での諸活動面で落ち着きと着実な前進が見られます。高価な施設が設置されたので、公共物、特に教室の環境を良くすること、節電意識を高めるための指導をしました。今では、放課後の教室施錠及び消灯が徹底して行われるようになりました。

知覧町「平和メッセージ」弁論大会全国制覇

終戦の日の8月15日に行われた鹿児島県知覧町「平和メッセージ」弁論大会で、本校3年生の上江洲由紀子さんが最優秀となり、全国一になりました。知覧町は、去る大戦での特攻発進基地として知られた町で、戦争の悲惨さを伝えるとともに、平和の願いを込めて、中高・一般の部門で、全国公募の弁論大会を行っています。今年は第14回の開催で、県代表としては2年ぶり、2人目の快挙でした。由紀子さんは「平和な明日を築くために」という題で、「赤い色が大嫌いだ……」の出だして、祖母が語る沖縄戦の悲惨さと、今ある平和がいかに大切なものであるかを訴え、見事、全国制覇を果たしました。

県大会優勝旗 3 本校長室を飾る

昨年度は優勝旗が1本もなく、寂しい校長室でしたが、今年は、3本も校長室の机の前に堂々と並んでいます。賑やかな、そして、晴れやかな校長室になりました。県高校新人総合体育大会で、空手道部女子団体総合優勝、同弓道部女子団体総合優勝、第22回全国高等学校弓道選抜県予選大会で、男子が総合優勝を勝ち取りました。高校総体男女総合5位（昨年度は7位）への躍進と並んで本校の部活動、意気盛んなことを象徴しています。

現役合格及び進学率アップの期待

受験生は、国公立二次試験のため、懸命に勉強中です。1月末時点で、推薦での国公立大学 10 名合格者を含む 173 名が進路を決定しています。

昨年度は同時期で 160 名でしたから、昨年度を上回っています。琉大の推薦入試の志願者が 15 名、2 月 6 日に面接が行われます。例年 2 桁 (10 名以上) の合格者がいますので、今年も例年並みを見込んでいます。センター試験は、平均点や高得点獲得者の数が大幅に増えていますので、国公立大学合格者数の増加、ひいては現役合格率や進学率のアップが期待できます。

第 44 回そめおり展

染色デザイン科の卒業作品展「第 44 回そめおり展」が 1 月 27 日から 2 月 1 日までの 6 日間、パレットくもじ市民ギャラリーで開催されました。首里高校の伝統を象徴するものとして、広く県民に知れわたっています。延べ 2,030 人の参加者があり、丹精を込めた作品一つ一つに感嘆の声があがっていました。熱心に作品の出来映えや、制作方法などを訊ねる姿も見受けられました。

交易船を中央にあしらい、大交易時代がもたらした豊かな富みの数々をちりばめた「大交易と豊かな琉球文化」をモチーフにした大壁画は、多くの参観者の共感と感動を呼びました。

卒業生 31,357 人に

来る 3 月 1 日に、首里高校第 59 回卒業式が行われます。昨年度まで、帰国留学生 1 名を含み 30,882 人、今年度は 475 人が卒業し、新たに養秀同窓会の仲間入りをします。これにより、首里高校になってからの卒業生は 31357 人、尋常中学校、一中時代 (併せて 4,771 人) から数えると、36,128 人になります。

編集後記

この会報を最初に手にする首里高校卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう！青雲の志を高く、それぞれの道をたくましく歩んで下さい。

会報は、ここ 1 年間の主な活動を中心に、会員の動き、母校の近況等をできるだけ幅広く取り上げました。ご感想、をお寄せ下さい。(メールも可)

発行所 社団法人 養秀同窓会

〒 903 0815 那覇市首里金城町 1-7(養秀会館内)

電話・FAX : 098-885-6450

E-mail : youshu@tontonme.ne.jp

URL : <http://www.youshu.com>

振込先 : 琉球銀行首里支店 (313)

口座番号 : 普通 163-153

口座名 : (社) 養秀同窓会 会長 田端 國男